

全国縦断仕事おこしシンポジウム

協同の仕事おこしフォーラム 大分

～人と地域が必要な職場づくりとまちづくりのために～

2002年3月3日(土) 13時30分～17時

大分県総合社会福祉会館



協同の仕事おこしフォーラム報告

(センター事業団九州北事業本部ニュースより)

仲野秀香(センター事業団九州北事業本部)

大分の町でちんちょうげの花と出逢いました。そんな中、大分県の社会福祉総合会館で「協同の仕事おこしフォーラム」が行われました。

最初に労働者協同組合大分県協議会の高野修理事長の開会の挨拶があり、続いて特別報告として「県内の雇用情勢と実態」というテーマで大分大学経済学部の石井まこと助教授からお話がありました。

その後、コーディネーターに大分大学経済

学部の阿部誠教授をお迎えし、リレートークが始まりました。

始めは社会福祉法人榎の木薄田一さんが演台に立ち、資金作りに苦労したけれども、障害を持った者も志を持ち、新しい事へ挑戦をしている仲間たちへの想いをお話してくれました。

吉野鳥めし保存会の帆足キヨさんは発足当時から苦労話や鳥めしを作る喜びを思いをこめて語ってくれました。

全国縦断仕事おこしシンポジウム

ざびえる本舗の太田清利さんは、倒産の中から、仲間たちとざびえる本舗を立ち上げ、お菓子ひとつに、沢山の方々と協力のもてに作りあげてきたことを語ってくれました。

全国ほるぶの石橋弓恵さんは再建をめざしている凛々しい姿を見せてくれました。

エヌ・アール・ユーの甲斐田賢次さんは、国鉄闘争の中で自分達の力で仕事をおこし、仲間たちと働きやすい職場作りをめざして日々頑張っている様子をお話してくれました。

大分自交労働者協同組合の山野茂利さんは、作った時の原点を忘れず宝として次の世代に継承し、地域と共に生き、住民から愛されるタクシーをめざしているとお話してくれました。

労協センター事業団日田地域福祉事業所ヘルパーステーション「虹の家」の高野和子さんが仲間たちと皆さんに助けられながらやる気で頑張っていると気迫のこもったお話を聞くことができました。

そして、最後に日本労働者協同組合連合会の菅野正純理事長より「協同の仕事おこしの状況と焦点」というテーマで、人間としての熱い想いが仕事おこしとなっていて、その仕事おこしは働く人々が協同をし、利用する人々が協同し、地域の人々と協同をする新しい働き方が求められている、また「協同労働の協同組合」の法制化を実現していこうと特別報告があり、大分での仕事おこしフォーラ

ムは幕を閉じました。

さまざまな方の手を借りてこのような、フォーラムを開催することができたことに心から感謝致します。その中で感じたそれぞれの想いが幾年月を重ねて皆様のふとした想い出の中に届きますように。

「ざびえる」復活！



—昨年10月、和洋菓子製造の老舗「長久堂」が約12億円の負債を抱えて倒産。当初、県内外の菓子製造業者から「商標を売ってほしい」と

引き合いが相次いでいましたが、商標権を持つ伊藤社長（当時）は、「せめて（代表商品の）ざびえるだけでも従業員たちで引き継いでほしいと希望。

太田さんたちは、協同組合形式の運営を望んで、法人形態を模索。設立手続きなどの事情から最終的に有限会社を選択。（有）ざびえる本舗を設立。昨年4月に開業しました。

「大きな設備は引き上げられたので、小さな機械で何度も試作品を作っては捨て、ようやく復活できた。周囲の応援とさまざまな仕事先の協力があってこそ。感謝している」と熱い思いです。（日本労協新聞2002年3月15日号より）